

学位授与番号	乙第 1616 号
学位授与年月日	平成 18 年 2 月 15 日
氏 名	金田 礼三
学位論文題目	睡眠時無呼吸症候群における傾眠症状の評価法に関する研究

論文審査委員	主 査	教 授	越野 好文
	副 査	教 授	山田 正仁
			加藤 聖

### 内容の要旨及び審査の結果の要旨

睡眠時無呼吸症候群 (sleep apnea syndrome, SAS) は、睡眠中に呼吸が停止する疾患である。睡眠中の呼吸停止により睡眠が分断され、日中に過度の眠気を呈する。日中の眠気を把握し眠気を改善するための対策を講ずることは、注意や集中の持続を可能にするためにも、さらには眠気から生じる事故を防ぎ、安全で健康な社会を保つためにも重要である。本症候群は人口の 1~2%に存在すると推定されている有病率の高い疾患であるにもかかわらず、その眠気の評価法については十分な検討がされていない。また眠気の評価法はいくつかあるが、それぞれが評価している SAS 患者の眠気の程度に相違がみられ、本症候群の眠気の評価を難しくしている。そこで SAS 患者の眠気を主観的評価法および客観的評価法 (神経生理学的評価と行動学的評価) によって評価し、どの評価法が SAS の重症度をもっとも正確に反映しているかを検討した。

対象は金沢大学医学部附属病院神経科精神科を受診した SAS 患者 33 名 (男性 29 名, 女性 4 名) である。SAS の重症度は終夜睡眠ポリグラフィー検査により得られた無呼吸低呼吸指数 (apnea hypopnea index, AHI) に基づき判定した。主観的眠気はエップワース眠気尺度 (Epworth sleepiness scale, ESS), 関西学院式眠気尺度, 客観的眠気は多回睡眠潜時検査 (multiple sleep latency test, MSLT), 内田クレペリン精神作業検査, ブルドン抹消検査により評価した。眠気と性格傾向および記憶力との関係をみるためにミネソタ多面人格目録 (Minnesota multiphasic personality inventory, MMPI) とウエクスラー記憶尺度を施行した。

眠気の評価法の中で AHI との間に相関があったのは MSLT のみであり、MSLT が SAS の重症度を反映する検査と考えられた。ESS は MMPI の第 2 尺度 (D 抑うつ尺度) との間に相関がみられ、心理的な背景の影響をうける可能性が示唆された。

本研究は SAS の傾眠症状の評価法を確立する上で重要な研究であり、睡眠学の進歩に貢献する価値ある論文であると評価された。